

菩提樹



第 53 号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
ホームページ <http://kouryuji.jp/>
Eメール kouryuji@kouryuji.jp
責任者 嶋井 智峯

暑中お鬼舞い 申しあげます

高龍寺院家



高野山開創1200年記念大法会 仁和寺担当法会

平成27年5月14日

ベトナムの 少数民族の村を訪ねて



六月に友人の住職や高龍寺の檀家さんも参加して、ベトナム奥地の少数民族の村を訪ねる旅に出ました。ハノイから三百キロ入った中国国境に近いラオカイと言う町を中心に幾つかの少数民族の村を訪問しました

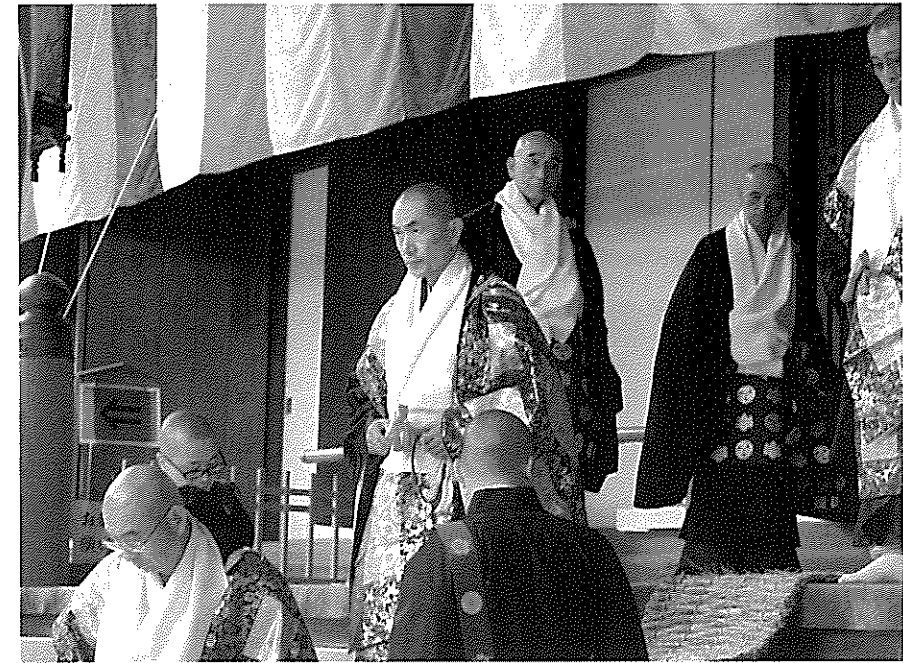
が、どの村の人達も山奥まで開墾し稲作に従事する姿は、昔の日本の田舎を見るようで、どこか古里とも思える様な懐かしささえ感じました。ところが村の道端で見た光景ですが、男性が犬を解体して、それを村の子供達が興味津々と覗き込んでいた様子です。日本人の目で見たら、とても残酷に見えたのですが、考えてみたら、田をすく水牛は貴重な労働力であり財産であるので、解体して食べるなどと言う事はとんでもない事で、貴重なタンパク源としては、犬のサイズ位が丁度良いのでしょうか？それにしても子供達がワクワクしながら解体を覗き込む様子は、衝撃的でした。お経の中で不殺生とは称えています



すが、なかなか守れるものではありません。それは私達も生きて行かなければならないからです。ではそれをどう受け止めるか、それには感謝と懺悔が必要であろうと思いましたが。あなたの命を頂いてごめんなさい。有り難うあなたの命を頂いて私の命を繋げて頂きます。感謝と懺悔がともなう「いただきます」となるのです。

高野山開創千二百周年記念大法要

今年には弘法大師空海上人が朝廷より、真言僧侶の修行の場として高野山を賜わって千二百年と言う記念の年にあたり、高野山では四月二日から五月二十一日までの五十日間に記念大法要が執り行われました。



この五十日間には、壇上伽藍の金堂や根本大塔そして奥の院の燈籠堂で約百五十座の法要が執り行われ、期間中全国から多くの檀信徒の皆さんがお参りになりました。そして五月十四日には総本山仁和寺門跡の立部祐道大僧正が金堂で導師を勤められる事となり、仁和寺から二十四名の僧侶が選抜されましたが、有り難い事にその式衆に選んで頂けて法要に出仕させて頂きました。実は昭和五十九年に高野山の師僧の寺で執事を



していた時に、弘法大師入定千百五十年忌大法要が行われ、期間中には今回と同じ様に、連日法要が執り行われ百万人もの方々が高野山に登られたのですが、宿坊の仕事が忙しく、

ただの一度もお参りする事も無く法要を終えた思い出がありましたので、今回式衆に選んで頂いた事は、三十年間の夢が叶った様な思いで山に登らせて頂きました。

仁和寺として高野山で執り行われた法要は、庭儀理趣三昧法要と申しまして、真言宗でも最も厳粛な法要に位置付けされている次第で勤められました。その中でも仁和寺にのみ伝わる形式として、僧侶が称える声明に雅楽の伴奏が付いて称えられ、童子達が蝶の姿に身を扮した胡蝶が登場し、大変美しく雅な法要が勤められたのです。

庭での法要を終え金堂に入堂しました時に、満席の堂内から数百名の御詠歌奉納の音が響く中、内陣に入り、今回初めて御開帳された大きな本尊様を拝んだ瞬間に、哀しい訳では無いのに突然涙が湧き出て来ました。法悦歓喜と言う言葉が有りますが、恥ずかしながら生れて初めてのこの言葉の意味を深く感じました。

